

令和 6 年度宇治市産業振興会議（要旨）

日 時	令和 6 年 12 月 23 日（月） 10:00～12:00
場 所	宇治市役所 8 階 大会議室
出席委員	白須正（会長）、川勝健志（副会長）、岸田秀紀、徳永興輝、本永治彦、斉藤洋子、吉田利一 計 7 名
議事要旨	1 開 会 2 会議の公開について 委員に会議公開について諮り了承。 3 議 事 （1）宇治市産業戦略 改訂版 具体的な取組内容とその進捗状況 事務局から取組の柱【（1）（2）】、【（3）（4）】、【（5）（6）】ごとに進捗状況について説明 ■ 取組の柱【（1）（2）】 （委員） ・物価高騰や人材不足の課題を抱えている企業は多く、今後、倒産する企業が増える可能性がある。資金繰りを含めた支援について、保証協会や金融機関と引き続き連携をお願いしたい。 （事務局コメント） ・企業の情報をいち早く把握し、保証協会や金融機関としっかり連携をとりながら、効果的な支援をしていきたい。 （委員） ・低利融資制度について、市内の多くの事業者が利用している。同制度の継続をお願いしたい。 （事務局コメント） ・継続できるよう取り組んでいきたい。 （委員） ・経営者の高齢化は社会課題である。事業承継の支援は大変難しい取組だが、継続してほしい。

	(事務局コメント) ・事業者が抱える課題は千差万別で、1つの対応策ですべてが解決することではなく、事業承継の支援は非常に難しい課題である。今後も関係機関と情報共有をしながら、より多くの事業者が事業承継できるよう取組を進めていきたい。 (委員) ・マッチング商談会は、どこでどんな形で実施しているのか。また、農業者と飲食店等、限られた業種のみではなく、他業種に広げてみてはどうか。 (事務局コメント) ・産業会館1階の多目的ホールで、飲食店に市内の食材を使ってもらうため実施していたが、幅広い業種でマッチングできるよう今後検討していきたい。 (委員) ・小中学生向けイベント「夏やすみものづくりフェス」は人気イベントである。抽選で落選する子どもが多いので、もう少し広い場所で、より多くの子どもが参加できたらいい。 立命館宇治中学・高校がものづくりの自由研究の手伝いをしてくれるような企画を実施していた。学校も巻き込んで実施してもおもしろい。 (事務局コメント) ・会場の広さに限界があり、残念ながら抽選の結果参加できなかった人も多くいた。より有意義に行うために今回の事業を検証しながら、より多くの人が参加できる仕組みができないのか検討したい。 (委員) ・産業政策の基本は企業訪問であるが、宇治市は積極的に企業訪問している。引き続き積極的に実施してほしい。訪問を通じて、BCP策定に関心のある企業に対して、声掛けをするとBCP策定の件数が増えると思う。 (事務局コメント) ・訪問件数については昨年度と同等、または少し上回るペースで進んでいる。訪問し、企業の課題やニーズ等を聞き、関係機関ともしっかり情報共有をしながら、事業に活かしていきたい。
--	---

	(委員) ・工業用地の確保について、スピード感を持って開発が進められている。産業戦略と都市計画において対外的に方針を明確にしている点、産業・都市整備・農業の関係部署間で連携がとれている点などが理由で順調に進んでいるのではないかと。引き続き連携を取りながら進めてもらいたい。 - 一方で、農地を減らすことにもなるが、宇治茶、野菜、イチゴ、米等、農業を頑張っている人も多くいるため、工業を支援する地域・農業を支援する地域を分ける等、メリハリをつける等しながら支援を継続してほしい。 (事務局コメント) ・引き続き、産業・都市整備・農業の各部局が連携しながら取り組んでいきたい。 - また、農業者の皆さんの一人一人の意見に耳を傾けながら、農業を守り、より発展していくよう進めていきたい。 (委員) ・各進捗状況の報告について、イベント参加者等は記載されているが、事業を行った結果や効果（アウトカム）についても記載してもらいたい。 (事務局コメント) ・今後の資料づくりの参考にしたい。 (委員) ・工業用地について、榎島沿道地区、白川沿道地区ももっと早く進めてほしい。 (事務局コメント) ・現在、安田町に全力を注いでいる状況だが、他の２地区についても現時点でどういうことができるのか、検討していきたい。 (委員) ・BCP策定について、まずは脅威とは何かを検討することが必要。脅威が分かれば、対象となる事業所数が分かり、対象となる事業者の内、何件策定できたのか分かるため、事業の評価ができる。脅威ごとにエリアや企業を限定してアプローチすることも重要な観点。
--	---

	(事務局コメント) ・水害に関するセミナーを今年度実施したが、参加者が少なかったと認識している。脅威ごとにエリアを限定するなどアプローチする手法も含め検討していきたい。 (委員) ・ダムが決壊等、災害が起きた場合、アクセスが途絶える地域があるかもしれない。事前にＪＲ、京阪、京阪バス等と包括連携協定を結ぶ等の対策をすることも必要。 (事務局コメント) ・防災部局で災害に対する協定を結んでいるが、産業の視点から、どのような協定が必要か検討していきたい。 (委員) ・商店街支援において、インバウンドの来訪者も増えているため、それに対応した事業も必要ではないか。 (事務局コメント) ・商店街に話を聞き、ニーズを拾いながら、インバウンド対策に向けた支援を検討していきたい。 (委員) ・宇治市は産業戦略を策定して以来、きめ細かく、幅広く取り組んでいて素晴らしいと思う。一方で、人員等のリソースに限りはあるため、自ら宇治市が取り組まねばならないこと、国や金融機関等と連携してやらないといけないこと、完全に民間企業に任せないといけないこと等、産業政策の役割分担について整理する必要がある。 ・報告書の区分について、「拡充」は量的に拡充していくイメージがあるが、質的な向上が重要であるため、「強化」が適当ではないか。現在は計画期間中であるため、節目で区分を変えてはどうか。 ・効果検証の精度を上げるためには、定量的に効果を掴んでいくアプローチが必要。また、事前の実態調査の重要。その後に、数値の増減の要因をとらえることも必要。 ・ＢＣＰに関して、セミナー等の参加を促すことも重要。参加の形態を多様化するため、短い動画コンテンツを作り、それぞれの都合に合わせて取り組んでもらう機会を提供することもよい。企業訪問時に声かけするな
--	---

	ど、地を這うようなアプローチを合わせると実効性が高まるのではないか。 ・情報発信の取り組みの効果の確認について、グーグル・アナリティクスで、発信した情報がどのような時間帯にどのような人が見ているのか、簡単な分析ができる。タイミングを一番のボリュームゾーンに合わせて発信する等、戦略的に情報発信することも重要。 ■ 取組の柱【(3)(4)】 (委員) ・求職者向けプロモーションについて、中小企業者からは動画の時代はすでに過ぎ、今は会社が日々どのようなことをしてるのか、ブログで発信する方がリアクションがいいと聞いている。 (事務局コメント) ・どのようなプロモーション方法が効果があるのか情報収集をしながら検討していきたい。 (委員) ・産学連携について、地元の京都文教大学はないのか。 (事務局コメント) ・理系の大学の研究室との交流を進め、将来的に中小企業にとって確保が難しい理系人材の採用に結びつけられたらと考えている。京都文教大学とは合同企業説明会において参加企業と学生との意見交換会を実施したこともある。 (委員) ・外国人材について特に記載はないが、ものづくり企業において、技能実習生、高度人材、さらに正社員として採用されるケースが増えている。 (事務局コメント) ・外国人材の活用を進めている企業と、全く関心がない企業とに2極化してると考えている。企業訪問等を通じて、企業のニーズを拾い、どのような支援が必要か検討していきたい。 (委員) ・産学交流について、一般的に製造業が大学の研究室と共同開発するよう
--	---

	なイメージがあるかと思うが、市単体で取り組んでもなかなか成果が出にくい。一方で、幅広く大学と連携していくことも有効。京都文教大学は心理学のコースがあり、どの企業も社員のメンタル面のケアは重要であり、大学の知見を活用することができるかもしれない。 外国人材の確保に関しては、多文化共生の考え方が必要になってくるが、文系学部の知見を生かせるのではないかな。 ・人材不足について、子供向けのイベントでは親もついてきて、親から色々な所に話が伝わることもある。様々な取組を通じて発信していくことが重要。 ・福利厚生面を重視して転職活動をする人が増えている。幅広い角度から情報発信をすると人材確保につながる。 ■ 取組の柱【(5)(6)】 (委員) ・ラッピングバスは一日に何人くらい乗ってるのか。 (事務局コメント) ・ニンテンドーミュージアムがオープンしてから、1日8便往復し、観光客・地域の人も含め、約2000名/月が利用していると聞いている。 (委員) ・近鉄小倉駅周辺のまちづくりについて、コミセンと小倉公民館での説明会に何人参加があったか。 (事務局コメント) ・説明会前に実施したオープンハウスは、現在集計をしているところであるが、概ね100名以上の参加があったと把握しており、オープンハウスに多数参加いただいたことから説明会は各所5名程度の参加であった。 (委員) ・雇用の確保について、UターンとかIターン等の中途採用を主たるターゲットにすべきではないか。 今の学生は地元への貢献や地元志向も高まっており、都会で学んだことを地元に戻って活かしたいという思いを持っている人が増えている。 市内の企業を知ってもらうと同時に、宇治市で働く、宇治市で暮らす魅力を学生の間に知っておいてもらうことや戻ってきたいときに知ってもらうことも重要。
--	---

	観光、子育て等の部署とうまく連携しながら、近い将来、宇治市民になるような、あるいは宇治市内で働いてくれるような人たちをしっかりとらえていくことが重要。 (事務局コメント) ・産業面だけではなく、若い世代の人がどのような暮らしをしていきたいのか等の視野を持ちながら、取り組んでいきたい。 (2) 新たな経済への脅威に対応した取組の報告 事務局から取組の報告を実施。 (3) 産業用地創出に向けた取組の進捗報告 事務局から進捗状況の報告を実施。 (委員) ・新規雇用の人数はシミュレーションしているか。 (事務局コメント) ・ものづくりエリア・物流エリアも含めて合計で約 1000 人規模の雇用が生まれると考えている。 (4) その他 特になし 6 閉 会 以上
--	--